

利尻富士町

吉村公佑

1. 町の由来、位置、気候

1.1 由来

町名の由来は、アイヌ語「リシリ」（高い島）からと、利尻島にそびえる利尻山の通称である「利尻富士」から。

1.2 歴史

1644 年蝦夷地図に「リシイリ」と記載され、文献上に初めて登場する。『津軽一統志』に、和人と利尻に住むアイヌ(300 人ほど)との間で海産物の交易をしていた様子が記載される。この記事から、すでに松前藩によるリイシリ場所が開かれていたと考えられる。1869 年蝦夷地が北海道に改称され、利尻島は北見国利尻郡に区別される。1878 年鴛泊、石崎、鬼脇、仙法志、杓形、本泊の 6 村が置かれる。そして 1880 年鴛泊に利尻郡各村戸長役場が置かれることになる。1956 年鬼脇・鴛泊合併し、東利尻村に、杓形・仙法志合併し、利尻町になる。1959 年東利尻町になり、鴛泊に役場新庁舎建設される。1990 年町名変更により利尻富士町になり現在にいたる。

1.3 位置

経度 緯度 東経 141 度 14 分、北緯 45 度 10 分

図 1 利尻富士町の位置



1.4 気候

気温 日本最北に位置しながらも 360 度海に囲まれているおかげで、一番暑い 8 月でも 30

度を超えることは稀、また、冬期間の一番冷え込む1・2月は氷点下10度より冷え込む日も数えるほどで、気温だけでいうと北海道の北部地方の中では過ごし易いといえる。

風 年平均風速も5mを超えほとんど毎日風が吹いているが、島が丸い地形という事もあって季節によっては、風の吹いている地区とほとんど吹かない地区がある。

島では風の方向をこう呼んでいます！

東風 → ヤマセ 南東 → ミナミヤマセ 南風 → クダリ 南西 → ヒカタ
西風 → ニシ 北西 → タマカゼ 北風 → アイ 北東 → シモカゼ

季節ごとの特徴

春：春一番が吹き、雪解けが一気に進むこの時季は、比較的天気の良い日が多い。また降水量も一番低い時季である。

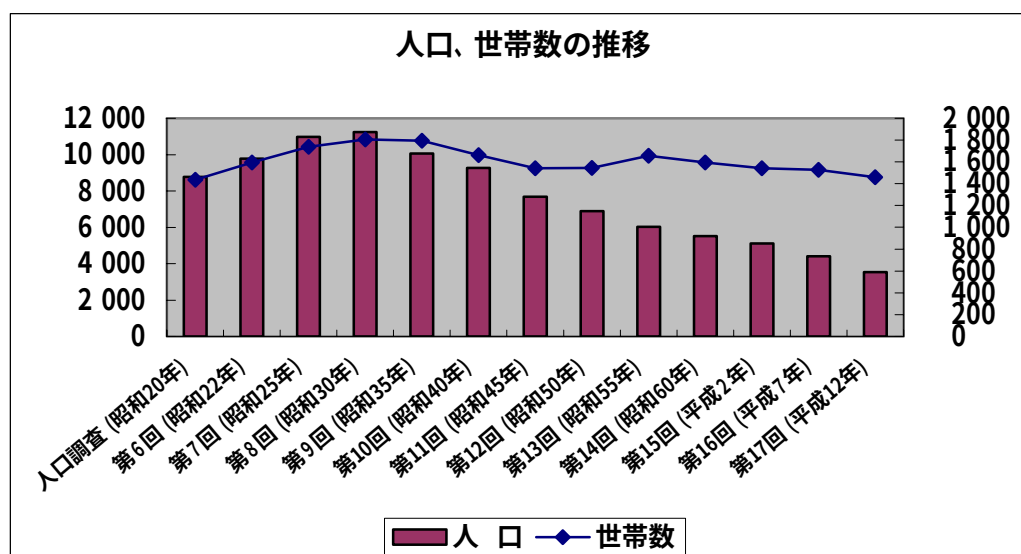
夏：夏の風向は、およそ南西からの風が多く5mを超えることも少なくないので、夏の風物詩である昆布干しでは、昆布が飛ばされないよう網を掛けることもしばしばあるようだ。

秋：風崩れの低気圧が通過したり、大陸から寒冷前線がかぶってきたりで、1年の中で最も降水量（雪の日もある）の多い時季である。風向もまた様ざまだが、日に日に西から北西の風多くなりあつという間に冬が訪れる。

冬：風雪の伴う北西の風が多く、町の西側では吹き溜まりで通行止めになる事があるが、年間の積雪量は1.5mと北海道内陸部に比べると少ないほうだといえる。また、3月には「彼岸荒れ」（発達した低気圧）が必ずありそれを過ぎると春がやってくる

2 人口、世帯数の推移

2.1 人口、世帯数の推移



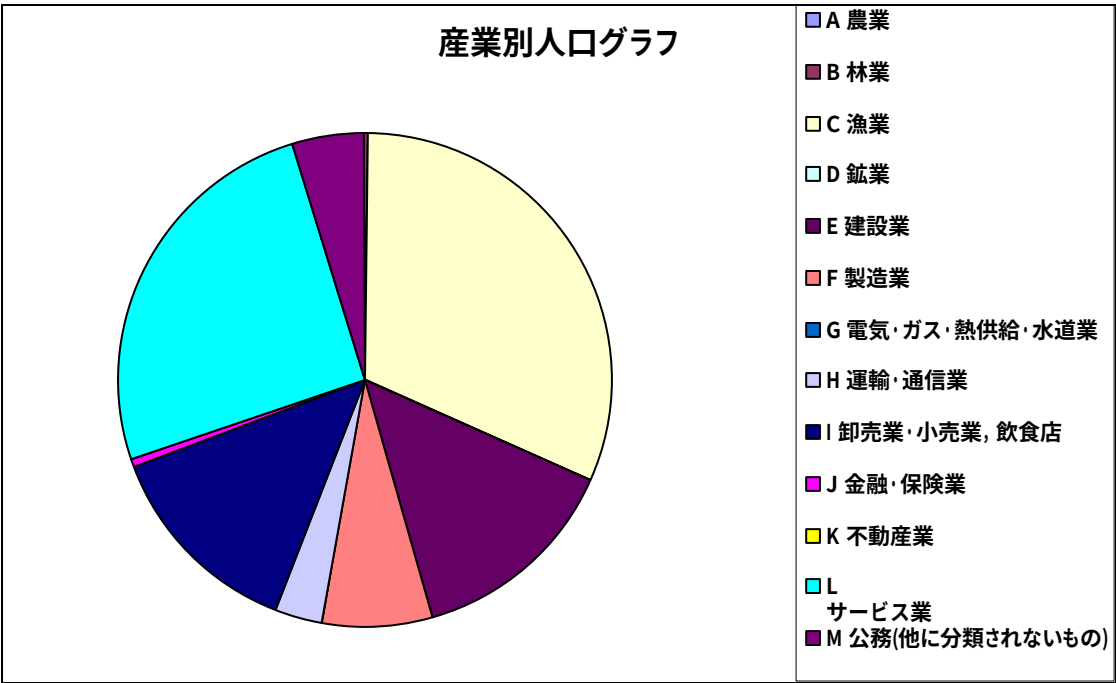
出典 宗谷支庁

世帯数自体にはそれほど大きな変化はみられていない。しかしながら、その人口は減少の一途をたどり、主産業である漁業の後継者不足に悩まされるところまできているようだ。人口はベビーブームを頂点に減少しており現在はその 3 分の 1 程度にまで減少してしまっている。また高齢化の影響は避けられず、先程述べた通り様々な産業に影響を与えてしまっているようだ。

3.産業

3.1 産業別人口

グラフ 2 産業別人口グラフ



出典 宗谷支庁

農業や林業に従事している人はほとんどおらず、一次産業従事者の多くは漁業に従事している。また、観光地として栄えているためにサービス業に従事している人も多いようだ。また特産物の利尻昆布などの海産物の影響もあり、製造業や飲食店。卸売り、小売業者の数も多い。

表 1 産業別人口割合

産業別就業人口	一次産業	899	二次産業	639	三次産業	1,034
産業別就業者比率(%)	一次産業	35	二次産業	24.8	三次産業	40.2

出典 利尻富士町ホームページ

利尻富士町の産業として中心をなしているのは、海に囲まれた立地状況から考えられる

ように漁業であるようである。昔から農業は栄えることはなく、利尻昆布で有名なように古くから漁業が栄えている。故に多数の人が漁業に従事し、一次産業のほとんどを漁業就業者が占めている。また、観光客向けの商売も多いので三次産業が占める割合も大きい。

3.2 利尻富士町の産業

利尻富士町の産業は、水産業が基幹産業であり、就職人口の43%を占めている。利尻昆布、ウニは名実ともに全国的に有名になっており、中でも地場産品である花折昆布、ウニ一夜漬、生ウニ丼等、代表的なものが多数ある。利尻富士町は、1950年に利尻道立自然公園として指定され、1965年に利尻礼文国定公園に指定されてから、夢の浮島日本最北端の観光地として全国の脚光をあび、さらに1974年9月、利尻礼文サロベツ国立公園に指定され、観客の急激な増加をみるようになった。

昨年は、237,100人の観光客が町を訪れ、近い将来50万人観光へと期待しているところであり、この背景には東京～稚内直行便に加えて、関西空港からの直行便がかなり影響しているものと考えられる。

(1) 水産業

表2 海産物の魚種別漁獲量

海産物の魚種別漁獲量			
ほっけ	839 t	なまこ類	21 t
いかなご	692 t	わかめ類	10 t
ひらめ・かれい類	525 t	たらばがに	5 t
うに類	451 t	あわび類	5 t
たこ類	446 t	にしん	4 t
するめいか	224 t	たら類	1 t
昆布類	211 t	まぐろ類	0 t
さけ・ます類	160 t	さめ類	0 t
えい類	97 t	ふぐ類	0 t
その他	54 t		

町の産業が漁業中心であるために漁獲量、その種類ともに豊富であるといえる。特に名物として名高い利尻昆布やウニなどは、北海道に留まらず全国的に有名である。よって、その漁獲量も多く、観光客向けに水揚げされる各種の刺身魚の水揚げ量も多い。

日本海沿岸で、ニシン漁が栄えたとおり利尻島においてもニシン漁全盛の時代が存在した。その後ニシン漁が衰退し、もともと有名だった「利尻昆布」やウニ漁を主体とする根付漁業と、タコやカレイを主体とする沿岸漁業へと形態が変化していくことになる。更に近年では、鮭の孵化放流やウニあわび種苗の放流、利尻昆布の養殖・ホタテの養殖と、育てる漁業のほか、投石や魚礁、岩礁爆破と漁場造成にも力を入れているようだ。

(2) 農業

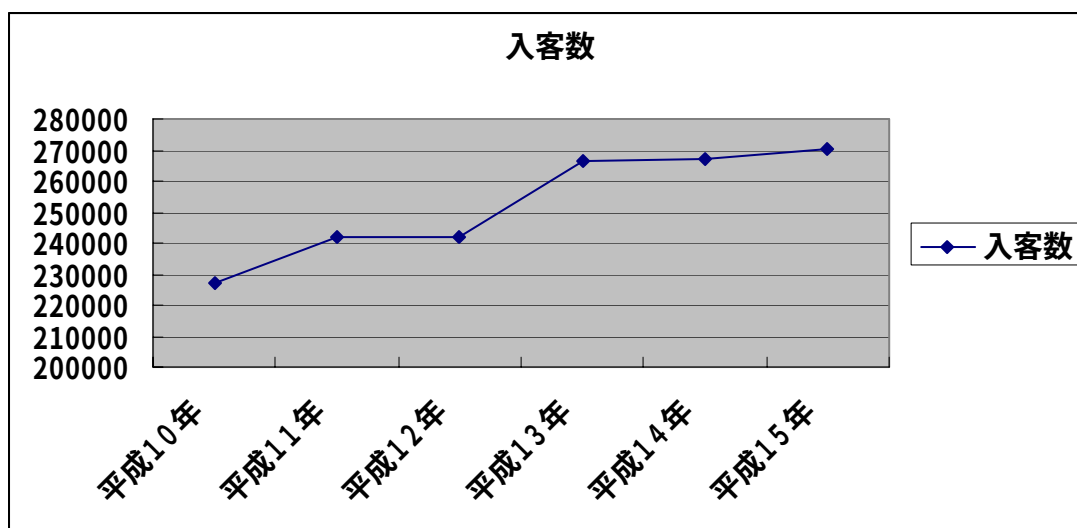
表 3 農産物収穫量

	作付面積	収穫量
だいこん	4h a	78 t
ばれいしょ	5h a	86 t
はくさい	1h a	22 t
キャベツ	3h a	81 t

農業従事者がほとんどいないために生産される作物も少なく、その生産物にも偏りがある。特に特産といえるものもなく、農業が利尻富士町の産業に占める割合も小さい。また、一般的な穀物類の生産は行っていないのも特徴といえるだろう。そのほかでは、山菜の商品化やミンクの飼育、養豚・養鶏更には酪農もあったが、いずれも現在では消滅している。

(3) 観光事業

グラフ 3 利尻富士町観光客動員数



「観光」として注目されたのは、ニシン漁が衰退した以後、名勝・名所を見直し資源開発を試みるようになった頃で、1965年には「利尻・礼文国定公園」に指定されることが始まりである。更に、全国から選ばれた百選が3つ存在し、1996年に温泉がでたことから、観光事業は着実に伸びている。この勢いにより町としては近い将来に観光客数50万人を目標としており、町として様々なイベントを計画するなどの努力を行っている。毎年8月2日～3日の両日にかけて開催される「北海島まつり」は、今年で30回を迎え、町民はもとより観光客の憩いの日として定着しており、このことも観光客増加に拍車をかけている。

主要参照ホームページ一覧

<http://www.souya.pref.hokkaido.jp/main/index.html> 宗谷支庁

<http://www.town.rishirifuji.hokkaido.jp/> 利尻富士町ホームページ

<http://www.toukei.maff.go.jp/shityoson/map2/01-03/519/agriculture.html>

http://www.do-shokoren.com/kaido/jp_n/rishirifuji.htm